

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Space Kids沖縄		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日		令和8年4月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月13日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価では、子どもが安心感をもって通所していること、支援に満足していることについて高い評価が見られた。放課後の時間に、安心して過ごせる居場所としての役割を果たしている。	学校後の疲れや気持ちの状態を確認しながら、無理なく活動に参加できるよう支援している。 活動への参加についても、子どもの自己選択を大切にしながら、参加したくなる声かけや工夫を行っている。 個別活動、集団活動、運動、制作、外出活動などを組み合わせ、子どもが楽しみながら経験を広げられるようにしている。	活動内容によって通所意欲に差が出ることももいるため、活動予定の伝え方や選択肢の提示を工夫していく。 子どもが「今日はいきたい」と感じられる活動づくりを継続しながら、安心して過ごせる時間と、挑戦できる時間のバランスを整えていく。
2	個別支援計画に沿った支援や、保護者との情報共有について肯定的な評価が見られた。 学校生活、家庭での様子、事業所での姿をつなげながら、子どもの成長を支えている点が強みである。	日々の申し送りや連絡を通して、子どもの健康状態、活動の様子、友達との関わり、気持ちの変化などを保護者と共有している。 学校との情報共有や下校時刻の確認、送迎時の連携にも取り組み、子どもが安心して利用できるよう努めている。	今後も、学校・家庭・事業所で子どもの姿を共有し、支援方針の一貫性を高めていく。 個別支援計画については、支援内容や目標が保護者により分かりやすく伝わるよう、具体的なエピソードや成長の様子を交えて説明する。
3	放課後等デイサービスでは、活動プログラムが固定化しないよう工夫されていることや、子どもの自己選択を大切にしている点が強みである。	活動内容を固定化せず、運動、制作、学習、自由遊び、外出、地域活動など、子どもの興味や発達段階に合わせた活動を取り入れている。 活動に参加するかどうかについても、子どもの気持ちを確認しながら、主体的に選べるよう支援している。	活動のねらいを職員間で共有し、単なる遊びではなく、社会性、コミュニケーション、感情調整、自己決定、生活力の育ちにつながるよう整理していく。 活動後は、子どもの成長や変化を保護者に伝え、支援の意図がより伝わるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	従業者評価では、職員配置や生活空間の構造化について課題が見られた。 放課後等デイサービスでは、年齢や発達段階の幅が広く、学校後の疲れや感情の揺れも見られるため、安心して過ごせる空間づくりが重要である。	送迎や記録業務と児童対応が重なる時間帯があり、職員配置に余裕がないと感じられる場面がある。 また、活動スペース、学習スペース、クールダウンスペースをどのように使い分けるかについて、さらに整理が必要である。	児童の人数、活動内容、送迎状況に応じた職員配置を検討し、安全に見守れる体制づくりを進める。 学習、集団活動、クールダウンの場所を分かりやすく整理し、子どもが自分に合った過ごし方を選びやすい環境を整えていく。
2	保護者評価では、家族支援プログラム、保護者会、保護者同士の交流、きょうだい支援について、「わからない」の回答が見られた。 放課後等デイサービスでは、家庭や学校生活での困りごとが多様であり、保護者が相談しやすい仕組みづくりが求められる。	日々の連絡や個別相談は行っているが、保護者同士が気軽につながる場や、家族全体を支える取組としては十分に整理されていない。 また、きょうだい支援については、イベントとして実施することの難しさもあり、取組内容が見えにくい状況がある。	保護者会を堅い場に限定せず、座談会や情報交換会など、参加しやすい形で検討する。 家庭での関わり方、学校との連携、思春期に向けた支援、きょうだいへの配慮など、保護者の関心が高い内容を取り上げ、家族支援の充実につなげる。
3	地域の子どもとの交流や、非常時対応・避難訓練については、事業所として取組を行っている一方で、保護者には十分に伝わっていない面が見られた。	長期休暇中の交流活動や地域行事への参加、夏祭り等での地域との関わりはあるが、その内容を保護者へ継続的に発信する機会が少なかった。 また、避難訓練や安全計画についても、実施している内容が保護者に伝わりきっていない可能性がある。	地域交流や外部との関わりについては、活動後に目的や子どもの様子を発信し、支援の一環として見える化する。 避難訓練や安全計画についても、実施後に内容や子どもの様子、今後の改善点を簡潔に共有し、保護者が安心して利用できるよう周知を継続する。